

釈尊八大聖地巡拝と仏像発祥地マトゥラー、タージマハル 11日間

お釈迦様ゆかりの八大聖地の全て(生誕・ルンビニ、成道・ブッダガヤ、初転法輪・サルナート、涅槃・クシナガラ、王舎城・ラージギル、祇園精舎・スラヴァスティー、猿王奉蜜・ヴァイシャーリー、三道宝階降下)を参拝します。併せて仏像発祥の地・マトゥラーの博物館とタージマハルも見学します。

1	各地空港 ⇒ デリー 空路、デリーへ(經由便または直行便) 【デリー泊】
2	デリー ⇒ バラナシ 空路、バラナシへ 初転法輪の地・サルナート参拝 (ダメーク塔、迎仏の塔、僧院跡、スリランカ寺院、博物館) 【バラナシ泊】
3	バラナシ → ブッダガヤ ご来光に合わせてガンジス河にてボートに乗り、沐浴風景や火葬場を見学 ブッダガヤへ 成道の地・ブッダガヤ参拝 (大菩提寺、聖菩提樹、金剛宝座、アショカ王柱、スジャータ村など) 【ブッダガヤ泊】
4	ブッダガヤ → ラージギル ラージギルへ 途中、前正覚山を参拝 ラージギル参拝(霊鷲山、竹林精舎、ビンビサーラ王の牢獄跡、城壁跡) 【ラージギル泊】
5	ラージギル → ヴァイシャーリー → ケサリヤ → クシナガラ ヴァイシャーリーへ ヴァイシャーリー参拝(アショカ王柱、僧院跡、仏舎利塔跡) クシナガラへ 途中、世界最大級のケサリヤ仏塔見学 【クシナガラ泊】
6	クシナガラ → ルンビニ クシナガラ参拝(涅槃堂、荼毘塚、最後の説法地跡) ネパールとの国境へ 国境を越え、ネパールに入りルンビニへ ルンビニ参拝(マヤ堂、産湯の池、アショカ王柱) 【ルンビニ泊】
7	ルンビニ → スラヴァスティー インドとの国境へ 国境を越え、インドに入りスラヴァスティーへ 途中、インドが主張するカピラ城跡・ピプラワ見学 【スラヴァスティー泊】
8	スラヴァスティー → サンカーシャ スラヴァスティー参拝(祇園精舎、舎衛城跡など) サンカーシャへ 【サンカーシャ泊】
9	サンカーシャ → アーグラ サンカーシャ参拝(祠堂跡、アショカ王柱) アーグラへ アーグラ見学(白垂の廟・タージマハル、アーグラ城) 【アーグラ泊】
10	アーグラ → マトゥラー → デリー ⇒ マトゥラーへ マトゥラー様式の仏像などが展示されるマトゥラー博物館見学 デリーへ 空路、帰国の都へ(直行便または經由便) 【機中泊】
11	各地空港 入国手続きと税関

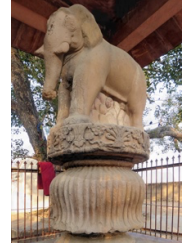
サンカーシャ(三道宝階降下)

釈尊は亡くなられた実母のマヤ夫人に説法をするために祇園精舎から三十三天に昇り、その後、天上から地上に金、銀、玉でできた階段で降りてこられた場所がサンカーシャだとされ、三道宝階降下の地としてご聖地の1つとなっています。

仏塔跡やアショカ王柱の柱頭部分、三道宝階降下の彫刻(レリーフ)が残っています。



アショカ王柱の頭部



ピプラワ(インドが主張するカピラ城)

釈尊が王子時代の住まいであったカピラ城跡とされる場所は現在、インドとネパールにそれぞれあります。インドが主張するピプラワからは「釈尊の舎利」と刻まれた舎利容器に入った仏舎利が発見されました。釈尊は春、夏、冬とそれぞれ違う場所に住んでいたとされるので、インド、ネパールどちらのカピラ城も本物だという説もあります。



ピプラワ遺跡全景

前正覚山

スジャータの乳粥の供養を受けた後、悟りを開くための禪定に入る場所を求め、この山に入りましたが、山の神が「この山は尊者が仏陀として悟りを開かれるのにはふさわしくありません。」との進言を受け、釈尊はこちらを去り、菩提樹に向かわれました。

釈尊が御身の影を残されたという「留影窟」が中腹にあり、現在はチベット仏教僧により護られています。



前正覚山遠景



洞窟内の仏像

ケサリヤ(世界最大級の仏塔)

2001年に発表された比較的新しい仏跡地です。現在の高さは32mですが、元々は46mあり、世界一大きな仏塔だったと考えられています。仏龕にはいくつかの壊れた仏像も安置されています。

釈尊が最後の旅にて、名残惜しんでどこまでも付いてくるヴァイシャーリーの人々にお別れをした場所とされています。



ケサリヤ仏塔全景